

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 医歯薬学総合研究科歯学系(基礎系)教員
歯学系(臨床系)教員・病院教員

組織目標		達成状況(成果)			
教 育	1)各履修コースおよび各専攻系のコースワークを検証するとともに、卒後臨床研修と関連したキャリアパスの確保に努める。	1)卒後臨床研修と大学院博士課程のキャリアパスを確保するため、早期に説明会を実施するとともに、大学院1年目や大学院修了直後の者が、病院職員である医員(レジデント)に採用できるよう、後期研修医制度を整えた。特別教育研究経費「口腔からQOL向上を目指す連携研究」を用いて、歯学系大学院生の国内外の教育研究施設への短期内地・海外派遣事業(短期留学制度)、研究スカラーシップ事業(研究経費支援事業)、国際学会での発表を支援する国際学会等派遣支援事業を行い、大学院生の魅力ある修学環境を整備した。			
	2)大学院GPの計画に基づき、学生支援事業、国際学会の開催、学習環境の整備に努める。	2)大学院GP事業により、学生の修学を支援する電子ポートフォリオシステム、多忙な教員が学生の教育管理をより効率的に行えるようにした教員支援システム、さらに学務担当者が学生の修学や教員の授業等を効率的に支援する学務支援システムを完成させた。また歯学系で人気の高い臨床専門医コースのカリキュラムを充実させるため、総合歯科分野が新たに参画して、急性期/慢性期口腔ケア学、摂食嚥下機能評価学などのコースワークを充実させた。また、歯学系を中心に、多数の海外の来賓や外部評価者を得て第二回岡山医療教育国際シンポジウムを行った。また第三回臨床研究デザインワークショップを開催した。今回のワークショップからは、本イベントの持続性を担保するために、岡大教員を中心にファシリテーターを編成し、大学院生の研究デザイン立案能力を高めるとともに、教員のFDIに利用した。これらの情報共有のため、大学院生専用のポータルサイト(ホームページ)の充実を行った。			
		達成度： ④ 3 2 1			
研 究	1)平成21年度末までに人員削減計画を完了し、プロジェクト型研究の推進を考慮した各研究分野への人員配置案をまとめる。	1)人員削減計画が実現し、学部長預かりの助教籍(若干名)を確保することができた。この助教籍の再配分を研究・教育・臨床を充実させる観点から行なった。なお今後、次期中期目標である「学士教育の構築」を視野に入れた学部教育充実のための再配分も考慮する予定である。			
		達成度： 4 ③ 2 1			
診 療	1)各専門診療科は増収に努める。	1)歯科系診療科は、平成15年以降で最高額であり、前年度から2月末現在で診療日数が2日減にもかかわらず前年度より58,443,725円の増収を達成できた。また下記の様な実績があった。(1)中央手術室での手術件数の大幅な増加。(2)障害者歯科医療において外来全身麻酔歯科治療など特色ある医療体制の充実。(3)医科歯科連携医療も活発化し、周術期管理センター(PERIO)の歯科部門を立ち上げ医科医療の支援を行った。口腔ケアや小児における口腔管理など医科系医療の支援体制の充実が図れた。			
	2)電子カルテ移行後のシステムの充実を図る。	2)平成21年度、電子カルテへの全面移行を遂行した。また問題点の抽出とその改善を繰り返し、電子カルテシステムの診療現場での浸透と歯科系構成員の意識変化が達成できた。今後も随時、見直しと改善を図りつつ、将来に生かしたい。			
	3)歯科卒後研修センターの移転とその臨床教育の充実を図る。	3)歯科卒後研修センターを歯学部棟2階の医事課移転跡に新規に移設し、懸案であった研修医の分散が解消され、より効率的な教育が行える体制ができた。施設面でも全国でも有数の歯科卒後研修センターを構築できた。			
		達成度： ④ 3 2 1			
社 会 貢 献	1)中核病院として、歯科医師会と連携をとり、検診や講演を通じて地域住民への歯科疾患・口腔疾患の予防、治療、健康増進などの啓蒙活動を行う。	1)岡山県歯科医師会、および他県歯科医師会が開催する講演会において、最新の予防法・治療法や高齢者口腔ケアについて講義した(歯科医師会や保健所主催の貢献会：総計14件)。また、学童・成人および高齢者を対象とした歯科健康診査を地域の歯科医師と協力して行った。			
	2)研究科の活動は、歯学部準ずる。	2)研究科の活動も含めて、歯学部に記載した。			
		達成度： ④ 3 2 1			
客 観 的 指 標	事項	前年	今年の目標	達成状況	
	大学院充足率	博士課程113%(H21年度) 41名中岡大卒23名	博士課程100%を維持	博士課程76%(H22年度) 29名中岡大卒15名	
	科研費申請率	99.2%	申請件数は1件/人以上	91.76%	
	科研費採択率	33.3%	増加に努める	38.46%	
	共同研究件数	8	増加に努める	9	
	受託研究件数	5	増加に努める	7	
	その他の競争的外部資金導入件数	厚労省科研 4件 民間の財団 7件	増加に努める	1	
	留年・休学・退学者数	博士課程で留年2名、休学4名、退学0名 (平成21年2月末現在)	(今年の状況) 現状までに留める	博士課程で留年2名、休学6名、退学2名 (平成22年2月末現在)	
	就職率	97.40%	増加に努める	83.3%(平成22年3月25日現在、大学院修了者12名中2名が未定)	
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。 客観的指標では、大学院充足率、休学・退学者数が前年度よりもやや悪い結果となっている。次年度組織目標に「大学院生の経済的支援や学習環境の整備に努める」を掲げているので、キャリアパスの確保とともに、関係委員会で検討していく予定である。					

【達成度】4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)